



学校教育理念：「**流**とした学校の共創」

教育目標：自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する長松っ子の育成



令和3年4月27日 1号 文責 長松小学校 校長 佐々木講吉

大航海への船出！ 気を引きしめ

大型客船「長松小丸」の出航です。

人事異動後の春休み中に、クラス分け→学級担任配置。そして児童情報の引継ぎや教室環境整備を済ませました。

4月6日の始業式に、子どもたちが乗船してきました。児童761名、職員65名による世界一周の大航海です。来年の3月24日までの約一年間をかけて、同船した仲間と学習や学校行事などを通し、教育目標に掲げている、「自ら学び、自ら考え、生き生きと活動する長松っ子」を目指します。今よりも更に成長した姿で帰港します。



航海の途中では、楽しいこともあれば、いじめや登校しぶり、学習不振など厳しい状況にも遭遇することでしょう。職員は、未然防止に努め、リスクを最小限に留めるようにチームで対応してまいります。

時には、ご家庭への協力をお願いもしますが、大切なのは、教師と親が正確な情報を共有し、子どものよき支援者となることでしょう。協調がなければ、長松丸は座礁します。協調こそ苦難を乗り越える手段なのです。

乗客と船員を路頭に迷わせないためにも、長松小丸船長の私の責任は重大です！



子どもたちの笑顔は 薬！

「おはようございまーす。」
登校時の子どもたちのあいさつ。
私の元気になる処方箋です。

「言葉は花束にも、ナイフにもなる。」と言われますが、子どもの遊びの会話で「死ぬ」「くそ！」「がい児（*障害児の略）」を聞くと、薬が毒となります。

口癖で使っていることも多いようです。思いやる、がまんする、正直になるなど道徳心の低下に心が痛みます。

本校では、昨年から自問教育と称し、子どもたちの心（玉）みがきを実践しています。

保護者の方にもご理解いただきたく、自問教育のリーフレットを作成し、本日配布しています。ご一読いただき、ご家庭でも玉みがきを実践時ただければ効果は一層高まると思います。

子どもたちの笑顔が溢れる学校、家庭、地域となることを期待しています。

4. 小学校期までに

脳の構造は、脳幹、大脳辺縁系、大脳新皮質から成り立っています。

人間だけが、がまん、感情、認知、正義、美づきなどの感情や行動を司る（つかさどる）大脳新皮質という「脳」を持ち備えています。

大脳新皮質は、鍛えなければ成長しません。鍛えるとは、「自己決定（意思決定）→実行→振り返り」を繰り返すことです。その結果、ステップアップが期待できる成長を遂げます。

脳を鍛え、心を成長させることは、自己肯定感や自尊心などを含め、心豊かな生徒を育てることに繋がると考えます。

このグラフは、脳の発達を示しています。ご覧のとおり、4歳くらいまでに感情等の発達が進み、年少期にはかけて知識や体験したこと記憶されます。

ところが10歳を過ぎるとほとんど発達は止まります。よく「つ」がつくころ、つまり7つまでに人格の形成はほぼ終ると言われます。

小学校期の子どもの関心は事象そのものです。社会性の土台を築く重要な時期です。特に、他人との関わりなど経験によって変わります。

脳科学的見地から、「考える=体験する=振り返る=高められる」の行動は、学習のキーワードかもしれませんが、ご家庭でも...

5. 脳と心

「長松丸の自問教育」

いつでも どこでも 玉みがき

長松小学校 校長 佐々木 講吉

1. 自問教育とは

今やいじめや災害、感染症、犯罪など生き抜くには厳しい現実があり、今後新たな社会問題が起きてくることでしょう。

これらの解決に特効薬はなく、ワケチン投てある心の教育を推進することが必要と考えられています。

本校では心の教育として、「思いやり」「がまん」「正義」「美づき」「感謝」の五つの心を成長に力を入れています。また、心の教育を推進するにあたり、一方的な指示・命令だけでなく、自らの正しい判断や行動が重要だと自らに自問自答させる姿勢も特色の一つです。

このことを、「自問教育」と位置付けて、いつでも どこでも 玉みがきを各学年に社会性、タテマツカ、主体性、道徳心など、強く道徳をかける心づくりに目指しています。

一語一語にはいきませんが、子どもたちが、これからの楽しい社会をたくましく生き抜くことを願って、全職員、全児童で挑戦してまいります。

2. 玉みがきとは

玉とは、「心」のことであり、子どもたちには、わかりやすいように「玉みがき」や「玉みがき」と指導しています。五つの玉（心）みがきをとおして、心の成長を図るものです。

- **がまん玉みがき（忍耐力）**
ぐうぐうとつぶやかないで我慢。
ぐうぐうとつぶやかないで我慢。
- **美づき玉みがき（清潔力）**
1日1回自分で掃除する。
1日1回自分で掃除する。
- **正義玉みがき（義理力）**
自分の正義は正しい。最後までやりぬく。
● 委員会活動、役割、テスト、掃除、手洗い、ボランティアなど。
- **思いやり玉みがき（共感力）**
自分がいやなことは、他人にもしない。
「お」のかけせざるところに「お」をかける（礼子）
- **感謝玉みがき（感謝力）**
言葉に「ありがとうございます」、がまんの心。

自問教育とは、自問教育の実践の場の一つです。

事後評価を活用して、児童一人ひとりが持っている「金言」（自分からすすんで考えたり行動したりすること）を高めたり、人に迷惑をかけない態度や心を実践します。

子どもたちは、スポーツ等の活動を通して、思いやりや忍耐などを体験する子どももいます。日々の生活の中ではその機会が少ないものです。そこで、全校一斉に取り組む自問教育を推進して、五つの玉みがきを全てを体験し、心の成長を図るものです。

最終的には、帰郷の時だけでなく、学校でも家庭でも、誰にでも自分の正義心やがまんの心、道徳心、思いやり、美づき心を実践する「いつでもどこでも玉みがき」に成長することを期待しています。

いつでもどこでも 玉みがき

忍耐 正義 共感 感謝